

第十類
六册
二頁
函

况坤八十七

歐米派出大使御用留之内

勅旨 御委任状

諸省見込为心得御達

御沙汰御下知太政官往復

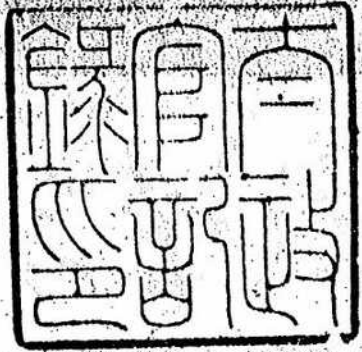
旅費并進贈品代價太蔵省請取高共

外務省調

国立公文書館	
分類	
排架番号	2 A
	33-6
	④ 420

420

六冊之内三



志十月八日

外務省

式部寮

中

吉野公家書具初

特命力全程大伴下之テ歐末者因之也

正史本

参議卿者先

卜

大御心書之信利通

二部書牘作後信文

御務少補山守書

特命及應到件下之御書各小書

光緒九年

御務少補山守書

御務少補

御務少補山守書

御務少補山守書

福地源下

御務少補山守書

御務少補山守書

御務少補山守書

御務少補山守書

御務少補山守書

川崎山守書

川崎山守書

夕

少

之

之

之

之

之

之

之

之

之

之

之

之

之

之

之

之

和務大臣御時時緒
 式部卿立止為仲
 新嘉山御時時緒
 兵部卿立止為仲
 左近將守令經古使政者為由
 右近將守令經古使政者為由
 左近將守令經古使政者為由
 右近將守令經古使政者為由

兵部卿立止為仲

左近山白隱軍少將御時時緒
 政事卿立止為仲
 左近將守令經古使政者為由
 右近將守令經古使政者為由
 左近將守令經古使政者為由
 右近將守令經古使政者為由
 左近將守令經古使政者為由
 右近將守令經古使政者為由

兵部卿立止為仲

此令令程去後令計為務也

修其為事

租稅權屬富田守保

河部 治

之殺田中戶籍以有程事官政事

之令上之令也之令也之令也

修其為事

租稅權屬富田守保

田中戶籍事

租稅權屬富田守保

之殺田中戶籍事

之令上之令也之令也之令也

之殺田中戶籍事

之令上之令也之令也之令也

修其為事

之殺田中戶籍事

夕 務 省

夕 務 省 中 助 兼 令 村 知 兼

田 村 良 翁

田 村 良 翁

夕 務 省 中 助 兼 令 村 知 兼

田 村 良 翁

夕 務 省 中 助 兼 令 村 知 兼

田 村 良 翁

田 村 良 翁

夕 務 省 中 助 兼 令 村 知 兼

田 村 良 翁

田 村 良 翁

夕 務 省 中 助 兼 令 村 知 兼

田 村 良 翁

夕 務 省 中 助 兼 令 村 知 兼

田 村 良 翁

夕 務 省 中 助 兼 令 村 知 兼

田 村 良 翁

朕等名もははるるを、之を承り

て、
修す事

今、
日、
西、
米、
荷、
蘭、
英、
丁、
株、
日、
耳、
瑞、
典、
白、
西、
魯、
佛、
獨、
乙、
大、
日、
本、
國、
天、
皇、
睦、
仁、
敬、
て、
威、
望、
隆、
盛、
友、
誼、
親、
密、
十、
几、
佛、
米、
瑞、
西、
大、
統、
領、
外、
各、
國、
皇、
帝、
陛、
下、
二、
百、
八、
十、
几、
朕、
天、
祐、
ヲ、
保、
有、
シ、
萬、
世、
一、
系、
十、
几、
皇、
祚、
ヲ、
踐、
ミ、
シ、
ヨ、
リ、
以、
來、
未、
夕、
和、
親、
ノ、
各、
國、
ニ、
聘、
問、
ノ、
禮、
ヲ、
修、
メ、
サ、
ル、
ヲ、
以、
テ、
茲、
ニ、
朕、
カ、
信、
任、
貴、
重、
ノ、
大、
臣、
右、
大、
臣、
正、
二、
位、
岩、
倉、
具、
視、
ヲ、
特、
命、
全、
權、
大、
使、
ト

御書

辛未
十月九日

澳布瑞西米荷蘭伊太葡英丁株日耳

瑞典白西魯佛獨乙

大日本國天皇睦仁敬て威望隆盛友誼親密

十几佛米瑞西大統領外各國皇帝陛下二百八

朕天祐ヲ保有シ萬世一系十几皇祚ヲ踐ミ

シヨリ以來未夕和親ノ各國ニ聘問ノ禮ヲ

修メサルヲ以テ茲ニ朕カ信任貴重ノ大臣

右大臣正二位岩倉具視ヲ特命全權大使ト

三 參議從三位木戸孝允大藏卿從三位大久
 保利通工部大輔從四位伊藤博文外務少輔
 從四位山口尚芳ヲ特命全權副使トシ共ニ
 全權ヲ委任シ貴國及ヒ各國ニ派出シ聘問
 ノ禮ヲ修メ益親好ノ情誼ヲ厚クセヒト欲
 ス且貴國ト結ヒタル條約ヲ改正スルノ期
 近ク來歲ニアルヲ以テ朕カ期望豫圖スル
 所ハ開明各國ニ比シク人民ヲレテ其公權

ト公利トヲ保有セシメン為ニ從來ノ定約
 ヲ釐正セント欲スト雖モ我國ノ開化未タ
 決カラス政律モ亦從テ異レハ多少ノ時月
 ヲ費スニ非レハ其期望ヲ達スル能ハス故
 ニ勉メテ開明各國ニ行ハル、諸方法ヲ擇
 ヒ之ヲ我國ニ施ス適宜妥當ナルヲ采リ漸
 次ニ政俗ヲ革メ同一致ナラシメンコトヲ
 欲ス於是我國ノ事情ヲ貴國政府ニ詢リ其

考案ヲ得テ以テ現今將來施設スヘキ方畧
ヲ商量セシメ使臣帰国ノ上條約改正ノ議
ニ及ヒ朕カ期望豫圖スル所ヲ達セント欲
ス此使臣ハ朕カ貴重信任スル所ナレハ
大統領能ク其言ヲ信聽シ之ヲ寵待榮遇セ
ラレシコトヲ望ミ且切ニ

大統領、康福貴國、安寧ヲ祈ル

明治四年辛未十一月四日東京宮城ニ於

テ親ヲ名ヲ記シ璽ヲ鈐ス

睦仁

國璽

太政大臣從一位三條實美 花押

一

勅旨

一 使命、大旨國書ヲ體ニ列國條約及稅則
 ヲ審考シ國ノ権理ト利益トヲ失ハサル
 事ニ注意シ談判ノ條理處事ノ例規單ニ
 公法ニ照準シ内勅及條約改正ニヨリ目
 的ノ件々實際履行スヘキ順序ノ別勅旨
 ヲ奉シ便宜從事スヘシ

一 馬關償金ノ事ハ便宜談判ヲ遂クヘシ

若し外國人民利益トナルヘキトト交換
ノ談判ニ涉ルコトアリトモ無税又ハ減税
等ノ談判ハ受クヘカラス

但自後開港ノ談判ニ及フ時ハ越前敦
賀志摩鳥羽三陸中ニテ一ヶ所北海道
ニテ一ヶ所ノ内一港ヲ開ク談判約束
ヲナシ得ヘシ

新潟港ヲ開^行闕チ別ニ一港ヲ開ク談判

ニ及フ時ハ前ニ載ル港ノ内ヲ以テ之

ニ換ルノ談判約束ヲナスヘシ

一 各國ニ於テ要用ノ人物ヲ選テ之ヲ雇ヒ

及器具ヲ購スルコトヲ專決シ理事官ヨリ

此事ヲ申請スル時ハ之ヲ可否判断スヘシ

一 條約アル國々ノ内未ク辦務使ヲ派出セ

サル國ニ辦務使ヲ置クコトヲ約束スルヲ

得ヘシ而シテ一國ニ一員ヲ置キ或ハ兩

國ヲ兼任セシムルハ便宜考定シテ其状ヲ具シ報告スヘシ

一各理事官ヲ各國ニ分遣シ擔當ノ科目ヲ研究習學セシムルハ實地談判ノ便宜ニ從ヒ之ヲ定メ及其行事ノ循序期限等之ヲ指揮スヘシ

一隨行ノ官員其^材ヲ量テ之ニ科用ヲ分テ各國ニ留メテ研究習學セシムル及各國ニ

官費ヲ以テ留學スル生徒ノ分科修業ヲ檢査案定シ發行無クモハ歸國ヲ申渡スヘシ

但留學生徒ノ費用ヲ裁省シ其方ヲ檢定スヘシ

一諸官員ノ行狀ニ注意シ訴訟ヲ以時ハ之ヲ裁斷シ罪違ヲ犯スヘキハ奉職無狀ナルヲ以テ其狀ヲ具シ歸國ヲ申

渡スヘシ

一 各國往復ノ公書談判ノ顛末其時々要旨ヲ書録シ速ニ之ヲ報告スヘシ

一 凡テ談判ノ旨趣副使一同國務議シ獨自ノ專断スヘカラス

右勅旨件々遵奉シテ愆ルヲ勿ルヘシ

奉勅 太政大臣三條實美 花押

別勅旨

條約改正ニ付目的トシタル件々ヲ實際ニ履行スヘキ順序

一 三府五港ニハ各國ノ人民ノ來住ヲ許シ

タルニ付以來外國人居留地ノ區別ヲ廢

シ彼我人民自由ニ雜居スルヲ許スヘ

シ

一 右ノ外國人等ハ都テ日本政府ノ法律ノ

下ニ立^ル其^レ方官廳ノ規則ヲ遵奉スヘシ
 故ニ其地ニ居住セント欲スル者ハ三府
 五港ノ官廳ニ来リテ何區何街ニ住シ何
 産業ヲ營ナマント欲スル^ル并ニ生國名
 等ノ願書認メテ申立ヘシ是ハ記録局ノ
 所務タルニ付^{港府}ノ官廳ニ各記録局ヲ取
 設テ外國人ヲ使用スヘシ
 一三府五港ノ外ハ外國人ヲ居住セシメス

ト雖^レ其全國中ヲ自由ニ旅行スルハ其
 通權中ニアルベシ故ニ旅行ヲ願フ者ハ
 港府ノ官廳ニ来リテ旅行免狀即チ往來切
 手ヲ乞フヘシ此往來切手ニハ其地ノ知
 事之ニ名記スヘシ
 一日本政府ノ職務ニ任用セララル^ル外國人
 ハ即チ日本政府ノ官員ナレハ右ノ制限
 ニ拍ラサルヘシ且ツ曠山耕作等ノ産業

ニ付府港外ニ居住スルハ其官廳ノ特許ヲ得サルヘカラス

一日本内地ニ居住スル外國人ハ日本政府ノ法律制度ニ服従スルヲ以テ内外人民ノ別ヲ論セス其訴訟ヲ裁判シ其罪狀審察スヘキ裁判所ヲ設クヘシ此裁判所ノ長官ハ日本人タルヘシト雖其法律ヲ審議考定スルヲ法官ハ各國ノ法律ニ通曉

ナル外國人ヲ使用シ日本官員ト共ニ法官ノ副ニ加ハラシムヘシ

一東京ニ大裁判所ヲ設テ各地ニテ審定シ難キ所ノ訴訟獄案ヲ指出シテ之ヲ裁判セシムヘシ此大裁判所ノ法官モ前同様外國人ヲ使用シテ其列ニ加ハラシムヘシ
一右ノ裁判所ヲ建ル以上ハ外國公使團士

等ハ一切日本ノ民法刑法ヲ論議スル
ヲ得ス又其國民タリ凡日本地内ニ居住
スル者ノ訴訟獄案ヲ決スルヲ得サル
ハレ
一右ノ裁判所ニ於テ遵奉スル所ノ民法刑
法ハ預シメ議法官ヲ設ケテ之ヲ議定セ
シムヘシ此議法官ハ外国人ト日本人ト
中ヨリ撰ミ出シ仮令ハ某國ノ法ヲ標本

トシテ之ヲ斟酌シテ決定セシムヘシ目
今ノ制度寮擴充スルノ理ナリ而シテ其
議法官員ヨリ進呈シタル法律案ハ三院
ニテ初テ法トナシ之ヲ公布シテ裁判所
ノ法律トナサシムヘシ
右別勅旨件々宜シク遵奉シテ愆ルヲ勿
ルヘシ

奉勅 太政大臣三條實美 花押

約定

今般特命全權大使派出、一舉ハ洵ニ不
容易大事業ニテ全國、隆替

皇運ノ泰否ニ關係スル事ナレハ中朝ノ
官員派出ノ使員ト内外照應氣脉貫通一
致勉力セサレハ成功難奏萬一議論矛盾
ニ目的差違ヲ生スル時ハ國事ヲ悞リ國
辱ヲ醸スヘキニ由リ爰ニ其要旨ノ條件

ヲ具列シ其事務ヲ委任擔當スル諸官員
連名調印シ一々遵奉シテ之ニ違背スル
ナキヲ證ス

第一款

御国書并遣使ノ旨趣ヲ奉シ一^致効力シ
議論矛盾目的差違ヲ生スヘカラス

第二款

中外要用ノ事件ハ其時々互ニ報告シ一

月兩次ノ書信ハ必ス欽クヘカラス

第三款

中外照應シテ事務ヲ處置スル為メ特ニ
大使事務管理ノ官員ニ命シテ之ニ従事
セシメ来歲大使帰国ノ上ハ中朝事務ニ
任スル官員ト共ニ理事官^等交代シテ外
國ニ派出セシムヘシ

第四款

大使使命ヲ遂ケ帰国ノ上ハ各國ニ於テ
商議及考察セシ條件ヲ參酌考定シ之ヲ
實地ニ施行スヘシ

第五款

各理事官ノ親見習學シテ考察セシ方法
方ハ酌定ノ上順次之ヲ實地ニ施行シ習
學了ラケルモノアレハ代理理事官之ヲ引
請完備ナラシムヘシ

第六款

内地ノ事務ハ大使帰国ノ上大ニ改正ス
ル目的ナレハ其間可成大々新規ノ改正
要スヘカラス萬一已ヲ得スレテ改正ス
ルトアラハ派出ノ大使ニ照會ヲ為スヘ
シ

第七款

廢藩置縣ノ處置ハ内地政務ノ統一ニ反

セシムヘキ基ナレハ條理ヲ逐テ順次其實効ヲ舉テ改正ノ地步ヲサシムヘシ

第八款

諸官^省員長官、欲員ナルハ別ニ任セス參議之ヲ分任シ其規模^模目的ヨリ變革セス

第九款

諸官省トモ勅奏判ヲ論セス官員ヲ增益スヘカラス若シ己ヲ得スシテ増員ヲ要

スル時ハ其情由ヲ具シテ決裁ヲ乞フヘシ

第十款

諸官省トモ現今雇入外國人、外更ニ雇入ルヘカラス若シ己ヲ得スシテ雇入ヲ要スル時ハ其情由ヲ具シテ決裁ヲ乞フ

ヘシ

第十一款

右院定日ノ會議ヲ体ノ議スヘキ事アル
ニ方テハ正院ヨリ其旨ヲ下シ毎會期日
ヲ定ムヘシ

第十二款

款内ノ條件之ヲ遵守シテ違背スヘカ
ス此約定ニ連名スル官員故ナク變置ス
ヘカヲ又此條件中若シ増損ヲ要スル時
ハ中外照會シテ之ヲ決スヘシ

凡ソ國ヲ強クスルハ民ヲ富スニアリ民ヲ
富スハ利用厚生ノ道ヲ得ルニアリ利用厚
生ノ道ヲ得ルハ全國ノ氣脈ヲ通シ久民ノ
勞力ヲ省クニアリ是西洋電線汽車ノ用ヲ
興ス所以ナリ哉

皇國土壤肥沃寒暄適度山海ノ利物産ノ富
之ヲ歐亞諸洲ニ比スルモ或ハ過ルコト有

テ及ハサルコト無ルヘシ然ルニ國力未タ
充實ニ至ラス物産未タ繁殖ニ至ラス況マ
邊安ノ地一旦緩急事アラハ首尾相救ハス
徒ニ人カヲ疲シ取用ヲ耗スモ其禦侮守疆
ノ道ニ於テ果メ如何ヲ知ス豈ニ寒心セサ
ルヘケンヤ曩ニ東京横濱大坂神戸等ノ間
始テ電線ヲ設ケ尔後鐵道ノ建築ヲ創メ今
マ略々竣ヲ告ク續テマサニ之ヲ谷道ニ及

ホサントス特ニ北海道、如キハ邊陸ノ要
地ニシテ大國ト境ヲ接ス開拓ノ業ヲ盛ニ
シ警備ノ方ヲ嚴ニセシト此二者ヲ設ケサ
ルヘカラス苟モ全國氣脈貫通シ壅滯梗塞
ノ患無ク人民勞力減省シ利用厚生ノ道ヲ
得ハ庶幾クハ富強ノ業期メ待ツヘキナリ
然リト雖モ事難易アリ一時ニ奉行スヘカ
ラス依テ先ツ電線ヲ通シ逐次ニ施設スル

所アラントス

御布告案

今般東京ヨリ陸奥國青森驛マテ鉄道御開
可相成ニ有差向キ傳信機御取建ニ相成候
條此旨沿道諸縣ニ相達候事

右工部ハ御沙汰書内史
大藏ハ心得達外史ヨリ達之

明治四年辛未十一月

太政大臣三條實美

右大臣岩倉具視

参議西郷隆盛

参議木戸孝允

参議大隈重信

参議板垣正形

議長後藤元燂

外務省

外務省

外務卿

神祇大輔 福羽美静

外務卿 副島種臣

大藏卿 大久保利通

大藏大輔 井上馨

兵部大輔 山縣有明

文部卿 大木喬任

工部大輔 伊藤博文

司法大輔 佐々木高行

司法大輔 実戸璣

官内卿 徳大寺實則

開拓次官 黒田清隆

外務卿

夕務

今般汝等ヲ使トシ海外各國ニ赴カ
シム朕素ヨリ汝等ノ能ク其職ヲ
盡シシ使命ニ堪ユヘキヲ知ル依テ今
國書ヲ付ス其レ能ク朕力意ヲ體シテ
努力セヨ朕今ヨリシテ汝等ノ無恙歸
期ノ日ヲ祝セシ丁ヲ俟ツ遠洋渡航千

夕務

夕務

萬自重セヨ

此命今程大段

之極多國正馬之序於此

之印事

細後法造之其裁官入之

其幣部之造細方之

但存心之其部有細書之

事

十務首

予物志を了るるに 権高有致を 始致を
以酒割て 予物志を 予物志を 予物志を
予物志を 予物志を 予物志を 予物志を
予物志を 予物志を 予物志を 予物志を

幸甚 幸甚

予物志を 予物志を

山 池

酒 穂 穂 穂

一 五 百 万 圓

予物志を

一 貳 百 万 圓

予物志を

一 百 万 圓

予物志を

合計

予物志を

予物志を 予物志を 予物志を 予物志を

予物志を 予物志を 予物志を 予物志を

不存之日も... 製造... 約... 計... 年... 中... 年... 造... 造...

体... 日... 年... 造... 時... 編...

工作之料

今... 機... 機... 機... 機... 機... 機... 機... 機... 機...

外務省

江より必し國家の好意を以て之を以て
一國の事なり

留学生の帰方と大蔵省同

欧米各地の留学生の學費に對する一俵の付加
同

預道二學制と製紙廠一外函人の雇入
と美工部省申上

書籍の採買と入札と美司法省同
教所の雇入と美司法省同

外務省

少務

一輸入品鑑定者以雇入ニ其大務者何
一佛蘭西法律書數買入ニ代金ニ其又法律者何
右實地於之便生交置下以美ニ其方為心得
多者數者其置以事

辛未十一月

紙幣製造并鐵道建築家以雇入

ニ俄ニ其何

紙幣製造ニ事

各其為者ニ其製造者乃ニ紙幣總て政府ニ
紙幣を以て引換ニ其必ニ其今其國ヲ
ニクテナルト子於之製造ニ紙幣也門一ニ其
多以之其取上野ノ故其地ニ於之ニ其系
ニ其日代候并成之ニ其浪者尚實際便也

十務

夕種

右形刻所ビドニトルフ會社一丁分ク採海ノ夜

一紙幣五ノ千圓 製法造し合計

内

五ノ千圓ハ 五拾圓ノ紙幣

以紙幣枚 拾万枚

八百圓ハ 拾圓ノ紙幣

以紙幣枚 拾万枚

五百圓ハ 五圓ノ紙幣

以紙幣枚 拾万枚

千圓ハ 拾圓ノ紙幣

以紙幣枚 五万枚

五百圓ハ 五圓ノ紙幣

以紙幣枚 五万枚

五百圓ハ 半圓ノ紙幣

以紙幣枚 千万枚

夕種

外務省

紙幣合数

三千四百九拾萬枚

鐵道建築工人の雇入に付

先般は市街に亘り東京ヨリ青森迄、秋迄
少波うみ成り交り此迄山川寥々平坦多
ク橋梁坑道し工事を急務に此迄の甚多
易しうとし強^急簡易に製造を考へて經費
を省くを要すは一に之を以て策し鄭重に

若し方便に相依りり方不越るに在り
米國鐵道建築工人の給料并に期限等
号又便宜酌定し上は雇入の概算を右
二件に於て一に之を以て今般造歐米所
得等に向て區次を設けし上製造并雇入
の委任に付し存心候し玉行は
辛未十二月 吉田大藏大臣
可上大臣大輔

小務

正後

口中

外務省

留學生及帰国生之儀

別紙取米石學生及帰国生之儀
候に付同
候取付に付以採用令格大便に其意置候任を
有向方ト存候然元平是生儀を出入候に
り候取人を格控一節候に付課に字を以て
し候取に付課に成を以てし候を情に付候
事是候に付法に候を實に夫も又も親等一
候に候候候候候候候候候候候候候候候候

外務省

為す法則に者にして之を文章に人をして因
る法則修不し経律法理論し学要も家も
要ししと不しと満しとのと能とも急も世も
為し可實其地極く学てさるも其書に就る之
を求りて粗可方概を均極して其個録を在
し得る一極蓋し事と学ふに於ては実境に
修も実了を執り丹孫傳習熟する所を是は
必良工を成る極也夫決して精極を極め
し古来吾國文字を重し法學を學し之より

工職洒者百課不率し一奇極を造り出さ
る未多一工場を築き其を夫修に今りし實道を
法其方今言明と稱夫多政未し其學同論博
知識言而律法經理可見玉より百工奇嘉
制器作器品少家殷富を法して後之を其也
し可方し然ハ則工藝法則に考問に於ルハ要
して又急しつり故に自是生徒ヲ出其ハ考ら是

卜務

夕

を先として詮撰法を奉るに

一若し詮撰之法立つと雖も必ず法嚴あり

さる所て名者工と考し之を以て其実定に

巧まざる境を出る則ち法を放ち恣に其深

を好み現を改米生徒の内其弊少く其者

其故に留子を命たり所〇何事下れは條り是

何年より實際^研究実事習熟一切を遂ぐは是

何課に用ひて適り候可なり〇之課に子を初め

夫して辨に此課に辨字あり考て初急成

不成に不拍帰願と命令可なり事〇彼地生

徒望智深者速月切課状に事実を撰り劣

是り考ら故ち帰願と校りるなり故に其命

且つ此に速に帰願可法事〇彼地を若し上

此書に望智深に可願置奉り〇右等し條令を

招たり書付を撰り名実始終画徹し候

仍亦し法嚴肅に事奉るに

外務省

一 右條令に如く邦内之法を是より是迄に
 修縣自在に生徒を出し、學費を返す才區に
 してハ其法も亦能く其に公費を以て留學
 者等とのも給ふ其令を大為者ニ學費に之を
 一 國に被國ニあり多學令引法人に悔し、是より
 全權を生徒等知得て一考一と其河に事なり
 一 右に候可也と思ふに其大候に此命一既、此
 地ニ在るに生徒より右條令に書を考得且學

費迄に候も別紙に之を以て布告あり、折法候
 在り候し初何りヤ

但生徒人探し法系邦内法辨令に送原
 多し以て一處に上其任一此命を以て亦りヤ

辛未十月 吉田大藏少輔

井上大藏大輔

西院

以中

外務省

外務省

以布告之新意

是正西米方圓之内一公費を以留學中付違り者
一學費金美送り方送ら大抵省に於ては扱ひ
若し其年正月かき分ハ其年五月甲申七月かき
分ハ十月中と七月以前は一日者一を在出る以来若
出り分も右の割合を以送ら七月以前
一日者一を在出る
一以来生徒等が以り節々其送費金令の如く

外務省

外務省

一、本邦ノ學費金ニ賜ハリ者ニ可及出可

海外ニアル留學生徒ノ考ニ修成ノ方法
ヲ設ケルノ議

方今海外各國ニ留學去ルノ生徒數百ノ人ニ至ル
其其財所ノ費額も亦尠ナク其其果我ニ
其明を述べるの基軸たるべきを以て其其額を
供與するにハ留學生徒も亦各々其其可學に
其其可學ノ所を留以て其其額と以月々の其其を俟
其其可學ノ所を留以て其其額と以月々の其其を俟

十務省

ち亦此留學に加入し、留學に連名する各
 地の小学校に塾生にふりて皆其教官に書送
 一日本生徒は此留學に定めたる順序を
 目的として教授し、毎月進歩の切課を
 其塾生に教書し留學に出さしむ
 始て其國に到着する學生は并務に中出望
 留學に旅を往其留學せんとなす所の目的は
 存し、留學に美果に達し、其地は接塾し

紹介状を留學に送り、之を執事し、
 其接塾に投書す
 生徒の学費は其寄附したる接塾教友の献
 告に依り留學に毎月之を交付するを
 バンクに達す
 バンクは日本より寄送の学費を預り、且て
 監督に其國に送す
 留學に毎月接塾の切課を以て日本生

後乃勤怠を考り世切課状に換印ヲ加テ之を
東京の大学校ヨリ送ラセ

若し世切課状ヨリて事實不能陸の生徒ヨク
成案者づきに此^非多ク陸軍部にて議定セハ速に
其後之帰路しノ費を考ク之を日本ニ帰ル
一之ハ陸軍部ノ議を以テ五斗^{五斗}ノ權トス
一
學費ノ増減或ハ増額を勉陸の生徒に與ル

考の議を學部ヨリ決定ス

右ノ方法に依リて生徒を約束セテ其成
案を以テ期を速に決メ之ヲ以テ其差
其額を減シ懶惰の生徒を逐ハ各々學費
一子を留學スルことを得人以テ府ヨリ世議
を以テ良ナリト許可し賜リ速に之を實
施スル事を特命令權大佐ニ任シ賜ル
事ヲ祈ル

事務

政^米康各地へ留学生の学費引受人の義

二付同

是は政^米康留學生の学費の送付方不都合し

此方にも互に極依し以未てサンフランシスコ、ニューヨーク、
ロンドン、パリ、ス、ヘルリン於て右学費金引受人
お命方と區を扱つ極依を依しお伺する

一各地に留生への送金額を多く極依表さる
る所は此一各地に引受人への送金額依る

小務省

外務省

各地に引受人より各個一年に定額を月
 と割合万一為功語に方延延に即定
 額夫に様智を後以概より事
 一右引受人に様漢表より皆五川に居
 り者をお概より事
 一右引受人に子教料として其五概に金額に
 而分一宛為旧政府より以下留學生に学金
 と不引去り概より事

一房智到若延延に即様智金に即り事
 相当に利息を不為旧政府より以辨り事
 与方概より事
 一右引受人より毎六月會計書大蔵省に
 為り出り概より事

辛未十一月
 吉田大蔵少輔
 井上大蔵大輔
 大久保大蔵卿

等ニ必用ニ忌穢類ハ見合セ買入シテハ秘
叶存存ハ勅々々右助^勢陸海備頼ハ内外ハ人々ハ
族抄仕向ケ兼書籍類買入シシ代料亦其時
於被邦ハ大藏省員ト可ト立ニ付口省ハ少産
並召シ及以思有伺リヤ

辛未十月廿五

司法省

正院

以中

教師ハ雇入ニ美ニ付竊書

各國改修ニ基テ法律詞方多振リ以付る者
先以耶勅翁ニテラ奉ニ海一傍ハ英米等ハ
法律ニ市合種^子子^自ハ勿論ニ以テ先^ハ其
目的ト其^ハ分^ハ以テ^ハ却^ハ其^ハ子^ハ孫^ハ之^ハ弊
害を生^ハ以^ハ素^ハ幸^ハニ今^ハ度^ハ當^ハ省^ハより大輔^ハ始^ハニ洋
以^ハ其^ハ御^ハ有^ハ以^ハ其^ハ者^ハ皆^ハ其^ハ以^ハ以^ハ之^ハ者^ハ以^ハ
其^ハ民法刑法詞訟法律等ニ多^ハ其人^ハ有^ハ三人^ハ似^ハ也

よりお雇いの方々は先以て伺及也

辛未 十月廿五日

司法省

正院

以中

輸入品鑑定者に雇入し候に付

運上所輸入品鑑定者に巧劣に依り大に収税し
多寡方に相異り方様候神戶島津一寺人宛之様
を以て米國運上所に於て其品類法に者お探り
雇入お成り候御意に許し候に付、先以て取遣取
米所候節、同一右人探り方并給料等、定り候
法より、先以て候に依り、お伺及也

辛未 十一月

吉田大蔵少輔

井上大蔵大輔

正院

中

二月七

伺之特命全權大使一其理事官ヨリ
申立於實地指揮可矣事)

佛東西法律書類買入代金所添之儀ニ付

伺書

佛東西法律書類^{目録}別紙洋書名ニ通シテ洋行

ニ序買入ノ後以テ右代金凡見込ノ有リ候
方以テ概至急大蔵省ニ申達可成候也此相
伺也

辛未十月五日

司法省

正院

中

十二月

書西洋書買入方之義ヲ特命全權
大使ト申立可定持揮事

今取内國稅法及海關稅更訂一見此等後
素之利害以矢字考熟議海關一上上
市壘間之及此一類別稅方通亦調是上上
且又此等時命考便取茶出帆之付各港輸出
入物品稅則初調之義ハ素ハ五ノ限ノ亦調是
上上上上存此以計是上上上

大藏少輔吉田清成

外務省

大藏大輔井上馨

正院

序中

内國租稅改正見込書

夫皇國之税法ニ於ケル往古ハ兵農不_レ分賦
 征無別中古ニ至リ政權武門ニ移リ封建之
 制行レ_レヨリ兵農全ク分_レ比隣法ヲ異ニ
 農_レ農民特_リ其重歛ニ苦_レム_レ久_レ今ヤ
 皇威煥發郡縣ノ體裁ニ帰_レ百政齊一之際
 經國ノ樞機理財會計之基本タル税法ヲ更

小務省

張セサルヘカラス抑租税ハ人民保護ノ要
 務タレハ之ヲ出サシムルヤ上下均一貧富
 公平ヲ旨トス而シテ税法ヲ施設スルニ當
 ツテ也特時リ地ニ耕ヤシ効ヲ勞スル者ニ課
 スルニ非スレテ物品ヲ費ス者ヨリ出サシ
 メ有用品ニ薄クシ無用品ニ重クスルヲ以
 テ普通ノ公理トス然リト雖モ從來田租ヲ
 主トシ五ノ公五民坪取ノ法ノ如キ今俄ニ之

ヲ廢セシトセハ因襲ノ久シキ既ニ人心ニ
 固結シ一時ニ整革シカタシ故ニ先ヲ地所
 賣買ノ禁ヲ解キ地券ヲ改メ而シテ沽券ノ
 税法ヲ施設シ或ハ物品税印等ヲ起シ其實
 弊ルニ從テ一般土地ノ税ヲ薄クシ以テ生
 産ノ増殖ヲ勸メ或ハ專賣特許ノ税ヲ設以
 テ人ノ智識ヲ開キ百工ヲ獎勵シ以テ人
 工ノ増殖ヲ誘導スル時ハ内地ノ物品繁殖

シテ國用以テ豊足スヘシ加之全國ノ地宜
ニ應スル物産ヲ育シ邦俗ニ適スル工藝ヲ
關キ其稅ヲ權衡シ海外ニ輸出シ然レテ我
國不足ノ物品ト交易シ海關保護稅ノ活用
ヲ以テ内地ノ物品輸出ノ利害ヲ去就シ海
外ヨリ輸入ノ物品ヲ計較シ其得失ニ從
テ之ク稅額ヲ輕重ニ常ニ輸出ノ物品ヲシ
テ輸入ノ物品ヨリ倍獲セシムルヲ注意

シ以テ之カ稅法ヲ設クル時ハ海外ニ對シ
テ許多ノ利益ヲ得ヘシ最モ内地ニ於テハ
稅法ノ平準ヲ極メ農民貢租ノ偏重ハ漸次
消却シ至當公平ヲ得ルニ至リ始メテ上ニ
ハ年ヲ逐テ歲入ノ利ヲ増シ下ニ偏重偏輕
ノ弊害ナク實ニ稅法ノ要機ニシテ今日ノ
急務ナリ聊微衷ヲ記シテ謹テ公評ヲ乞フ

我國今日祖稅之改正唯其法ニ要アルノミ
 コレヲ内ニスレハ物品及印稅等ノ制ヲ起
 シ用ニ隨ヒ事ニ由リ各其^{定額}額ヲ課スレテ
 特リ農ニ斂ムルノ法ヲ止メ百般齊一輕重
 正平ノ則ヲ立普通ノ公理ニ遵フヘキトコ
 レヲ外ニスレハ厚ク輸入ノ物ヲ稅シ輸出
 ノ品ヲ稅スルヲ無ク我製産ヲ保護スルノ
 海關稅ヲ興ストナリ然レモ事ニ先後ノ順

序アリ業ニ難易ノ差別アリ吾國今日百般
 ノ事唯従前ノ慣習ニ襲リ確律明法ニ依ル
 モノ寡ク百課ノ藝學淵博ナラス諸局ノ吏
 人其理ヲ會シ其用ニ通スル者或ハ十二二
 ミヲ得難シ高賈貧薄工職拙劣貿易繁ナラ
 ス器械好カラス今若シ時ノ順序ヲ測ラス
 未夕學ハサルノ吏人ヲシテ未夕世ニ確明
 ナラサルノ法ニ依ラシメ物呂其他ノ税ヲ

起シ海關防護ノ税ヲ定メハ其業或ハ易シ
 ト謂ヘカラス故ニ能ク此二者ノ要ヲ荏苒
 ニ舉ラシメント欲々ハ徐次左ノ目ヲ實ス
 ルニアルヘク存候

田租ヲ薄ス

田租ヲ薄シ農ニ餘財アラシメハ自ラ商工
 ノ業ヲ繁ニシ地租輕クレハ自ラ農耕ヲ勵
 スハ當然ノ理ト虽モ教無クシテ飽煖ナル
 ハ懈怠ヲ生スル媒ニシテ今若シ急ニ田租
 ヲ省カハ反テ農丈ヲ慢ラシメ窮窮荒蕪ヲ
 起スノ弊アリ故ニ先ヲ能ク勸農ノ術ヲ講
 シ督作ノ制ヲ定メ而シテ後ニ減租ノ令ヲ

出スヲ良トスヘシ且夫レ商工物品ノ税具
他印税許税等能ク其法則ヲ明ニシ收税ノ
額ヲ算セスレテ直ニ田租ヲ減セントセハ
国用ノ會計ヲ維スヘカラス然リト虽凡物
其緒ヲ紊セザレハ展フヘカラス故ニ業ニ
難无ク事ニ害無キモノヨリコレヲ始メ先
ツ田圃賣買ノ禁ヲ解キ地券ヲ更ノ総テ沽
券ノ法トナシ沽券ス就テ收税ノ制ヲ取調

フヘシ但シ現今減租ノ數ハ十分一二ノ間
ニ在ル事ト存セラル

物品其他印税算ヲ起ス

無知ノ民ハ虚聲ニ驚クト况ヤ少シク其實
アルニ似タルアラハ駭カサレヘカラス吾
国商民税ヲ免カレ肆ニ業ヲ営ム猶且殷盛
ナルヲ得ス動モスレハ時政ヲ罪シ或ハ
商税ノ起ラントヲ恐ル今若シ急ニ物品ヲ

税セハ先知ノ商民其声ニ駭キ物價ヲ騰貴
シ品位ヲ粗薄シ生産爲ニ傾衰シ工作爲ニ
廢墮スヘシ又證印ノ税ノ如キモ官ニ詳悉
ノ法律無ケレハ速ニコレヲ起シ難シ故ニ
此民ヲシテ税ハ己レノ私物ヲ護スルノ用
ニ供スルノ理ヲ會セシメ官ニ明法ノ吏ア
ラシムルノ方法ヲ漸次ニコレヲ講求シ兼
テ端緒ヲ開クカタメ沽券賣買ノ證印ニ税

之或ハ無用ノ商賈ヲ税シ一則立テ一事ヲ
施シ終ニ詳明齊整ノ境ニ至ラシムルヲ至
要トス

輸入ノ税ヲ重クス

国ノ製作最モ備ルモノハ自由ノ貿易ヲ主
張シ未タ備ハラサル者ハ保護ノ利ヲ説ク
今英ノ製作宇内ニ冠スルカ故ニ殆ント自
由ニ至リ米ハ未タコレニ如カス今猶保護

ヲ良トス是レ皆勢ノ然ラシムル所ニシテ
 米若シ英ノ法ニ擬セハ全国ノ製作地ニ墜
 ヘク英亦米ノ則ヲ摸セハ製作果シテ益
 ラス兩國各々法ヲ異ニス皆其勢ノ止ムヲ
 得サルニ因テナリ今我國ノ勢ニ於ケル未
 タ大場ノ製作無ク僅ニ手指ノ造ル所品位
 粗陋醜惡ナレモ價甚タ低シト云ヘカラス
 外交既ニ開ケテヨリ舟車機械衣服帽皆日

用必需ノ品具ト虽モ多クハ輸入品ヲ仰ク
 ニ至ル故ニ国内從古ノ工職愈益陋惡ニシ
 テ遂ニ廢頽ノ期アラントス偶コレヲ憂ル
 者器械ヲ用ヒテ製作ヲ興スモ工場小ニ工
 人拙ニ是ヲ輸入ノ品ニ比スレハ到底彼ニ
 敵ニ難ク或ハ終ニ斃レント今夫レ己ニ斯
 ノ如シ将来何等ノ術ヲ取り何等ノ用ヲ施
 シテ我カ製作ヲ盛ニシ我カ殷盛ヲ得ハ

然ラハ則米英兩國ノ法ヲ弁知シ又能ク
 我勢ヲ商量シテコレカ法ヲ為サ、ルヘカ
 ラス乃チ品ニヨリ重ク輸入ヲ税シテ保護
 ノ法ヲ立ルニアルヘシ然リト虽此又我カ
 今日ノ勢支藉武器藝學技術人知ヲ開キ國
 化ヲ増シ利用厚生有益ノモノ多クハ輸入
 ノ物品ヲ仰クハ保護ノ税ヲ賦スルニ方リ
 大ニ輕重ノ等差アルヘシ能ク其ノ我ニ利

利アルモノト否ラサル物トヲ弁別シテ利
 アルモノハ輕ク收メ不利ナルモノハ重ク
 歛メシム是レ立則ノ要ト謂フヘシ故ニ酒
 醬煙草ノ類ハ最モ重クコレヲ税シ糖蜜ノ
 類ハ是ニ次キ唐織更紗其他木綿糸織木綿
 綾蠟燭ノ類ハ是ニ次キ毛織ノ類ハマタコ
 レニ次クヘク學術^技藝ノ器械ニ於テハ甚
 タ輕ク税スヘシ蓋シ國家ヲ富スノ術時ニ

製産ヲ殖スニ在ルノニ能其要領ヲ通觀シ
彼地留學ノ生徒ヲシテ勉テ工藝ノ學ニ達
セシメ速ニ自由貿易ノ議ニ至ラストモ實
ニ保護ノ法ヲ旋候様篤ト注意致シ度候

輸出ノ税ヲ輕ス

輸出ノ品ヲ税セサルハ國々金貨ノ輸入ヲ
増シ民ニ倍獲ノ利ヲ得セシムルニ在リ而
シテ金貨ノ増スニ隨ヒ倍獲ノ益ヲ得ルニ

就テ政府ニシカ税法ヲ置キ収テ以テ國用
ニ供ス是レコレヲ彼ニ取ラズ是ニ収ムル
ノ法ト謂フヘシ然リト虽モ吾國今日ノ税
則特ニ農ニ斂ムルノニ未ク收得ノ多寡ニ
隨ヒ商ニ税スルノ法立サレハ假令金貨ノ
増スアルモ倍獲ノ益ヲ得ルモノアルモ政
府ニ收税ノ増加アルヘカラス或ハコレヲ
彼ニ失シ又是ニ失スルノ損アラシ故ニ内

國ノ諸税ヲ定メ國用充足ノ目途ヲ得ルニ至
 ル迄姑ク輸出ノ税ヲ存シ能ク得夫ヲ商量
 スヘシ但緝織物緝糸茶卷烟草等ノ類ノ如
 キ國産民業ヲ殖スヘキモノハ勉メテコレ
 カ税ヲ薄シ輸出ノ數ヲ増スヘキト存候

夕霧

物産令修訂後

一 穀類
 一 豆類
 一 薯類
 一 油類
 一 糖類
 一 紙類
 一 布類
 一 漆類
 一 陶器類
 一 雜貨類
 一 其他類

- 一 穀類 四等
- 一 豆類 四等
- 一 薯類 四等
- 一 油類 四等
- 一 糖類 四等
- 一 紙類 四等
- 一 布類 四等
- 一 漆類 四等
- 一 陶器類 四等
- 一 雜貨類 四等
- 一 其他類 四等

夕霧

夕
積
也

高
亦
誠
未
後
中
爲
之
彼
地
有
海
方
其
一
以
積
之
方
於
其
中
有
地
有
之
船
屋
其
後
方
之
海
之
中
有
之
船
屋

幸
甚
自

去
改
官

志
十
月
十
日

和
務
者
武
部
宗

也
中

言
雅
之
也

と
殺
田
中
片
若
若
以
理
業
中
官
と
之
政
業
者
之
至
と
若
若
也
と
之
身
池
以
中
片
若
若
也

名
也
日

十
卷
首

外務省

山崎武徳

事務

事務

事務

事務

事務

事務

事務

事務

事務

事務

事務

外務省

外務省大臣官房

庶務課

支那事務課

支那

支那

支那

支那事務課

支那

支那事務課

支那事務課

支那

支那事務課

支那事務課

今般特命令移方使所奉命也

此等事

少領生安川繁成

今般特命令移方使所奉命也

今般特命令移方使所奉命也

此等事

今般特命令移方使所奉命也

也

今般特命令移方使所奉命也

外務省

奉旨

外務省

中

或部

山内

今程出令今程出使

事

此

目下

外務省

外務省

大日本帝國政府

外務省

大日本帝國政府
外務省
事務次官

事務次官

事務次官

事務次官

事務次官

事務次官

事務次官

事務次官

事務次官

事務次官

事務次官

事務次官

外務省

奉旨

外務省 或部

中

外務省

外務省

外務省

外務省

外務省

外務省

外務省

廿七日

宣下亦成於各事此等亦成於各事

幸甚十日午可。

未十日午可。

外務省 或於各

中

送船以自為良

行東官之之政事各因之政事也

外

法之中心為民生

之段能由送船以自為良

十時首

政務省中下官等之職守及權限
之旨

政務省中下官等之職守及權限
之旨
政務省中下官等之職守及權限
之旨

川路商會

之職守及權限
之旨
政務省中下官等之職守及權限
之旨

政務省中下官等之職守及權限
之旨

政務省中下官等之職守及權限
之旨
政務省中下官等之職守及權限
之旨
政務省中下官等之職守及權限
之旨

明治十一年

外務省
事務

表目録

外務省事務

今般ふあつてゑんげんをひかへて女子校
の建てるべき事ありて其の由りて其の
少者少しとて其の少者少しとて其の
計 外務省

表目録 外務省

外務省

凡ソ國ノ文明ハ其人民才智ノ實ニ由レリ
而シテ其實タル學術ノ素アルニ由レリ今國
ヲシテ文明タラシメント欲スル學術ヲ獎ムルヨ
リ外ナシ而シテ學術ニ由リ才智ヲ研ク
專ラ之ヲ男子ノ業トナスヘカラス國內男女ヲ論
セス同シク之ヲナシ得ヘキハ固ヨリ條理ノ至當
ナルモノナリ且夫レ全國ノ人民ヲ概算スル

率子男女相半スヘシ故ニ男子タルモノ盡ク才
智ナラシムルモ国民ノ半タルニ過キス才智既
半ナレハ文明モ亦半國タルニ過キス如何ソ全
國ノ文明ヲ望ムヘケンヤ且嬰兒ヲ教育スル
襁褓中ヨリ開導シテ母氏ノ薰陶居多ナル
ニナラス閨閣ノ沼ハ修身齊家ノ本ナルニ我
邦從來女學子ノ教ナキヨリ偶讀書スルモノ
アルモ浮華ノ文詞ニ供スルニ過キス實地有

用ノ學人倫當務ノ一ニ於テ更ニ曉覺スル
コトナシ如此キ朦昧愚癡ノ母ヲシテ良知良
能ノ始ヲ教育セシム宜哉先入ノ言終身ノ
愚ヲ長シテ才智ノ開進セサル此レ今日維新
ノ際ニ於テ閣テ問ハサルハ一大缺典ト云ヘシ
此レ速ニ女學ヲ興シテ教育ノ本ヲ正クスヘキ
ナリ然シテ事ヲ舉ルニ循序アリ方今ノ事
宜上ヨリ下ヲ導カサレハ風ヲ移スニ足ラス今

皇后ハ萬民ノ母氏タリ婦徳ノ標的タリ故ニ学
校建立アラセラレ文明各國良家ノ閨秀ニシテ
學藝ニ通シ淑徳ナルモノヲ選ミテ教師トシ
華族等ノ女見ヲ率ヒテ習學セシメハ以テ化
ヲ廣メ風ヲ移スニ足ン此レ學校建立ノ要旨
ナリ

一カク般政事各圖ニ以テ進ム後節併連レ依
大臣ハ山人副使ト一人宛現寧ク運送ハ
下等ヲ以テ私賃年船中箱料旅費料
トト賜フ所及科ト高クも高令ト不
細更余書記等ノ官等ハ從者ト進ム
假可及依リ事
一月給并旅費ト等ト三月月多高地ト云

外務省

越後後之末に彼地を海方致し其後日
官し外高地を立寄人等海方し其後日
年々事

有し通る事

辛未十月

太政官

通る及び後日の特命令控大佐等取扱
概しその事者も其後日通る事
事

辛未十月廿二日

吉方大田文

副島外務大臣

吉方外務大臣

海外に於て行ふに續列外に於て其後日

十番

外務省

土方大臣の返

様へ御返事し候へども

別紙に御返事の上長崎表電信等
筆盛候へども

也

甲子

日

後

外務省の返

外務省

歐羅バ内にして各國の條約を改定せんと
欲す其の爲め東國政府に其全權を
出せしむと云ふ事
案の如き事ハ此乃郵船にて報告す
副使西人出帆ハ定り此月電信にて報告
す

四月九日

三條右大臣

事務首

表少弼使

少弼使

日中系洋曆六月七日

日中大臣岩倉閣下

米國華英和日印小三使館

有月二十日、電信を承りて

日自二十日、香港に向て出帆せられたるに

て、山松三所へ、君ノ求むる報書と送

りたり

三條

三條

夕
務
注

玉
帆
前
致
米
行
仕
用
倉
玉
納
為

十
務
目

夕務

月給取裁仕出

但末上月申正月迄三月分

金千八百兩 但一ヶ月
六百兩 岩倉右大臣

金千五百兩 但一ヶ月
五百兩 本戸参議

金千五百兩 但一ヶ月 大久保大藏卿

金千三百兩 但一ヶ月 伊藤右大臣

金千五百兩 但一ヶ月
三百兩 山口外務少輔

金六百兩 但一ヶ月
二百兩 田島少輔

夕務

夕
積
卷

金四百五拾兩但百五拾兩

堀田大記

金七百五拾兩但百五拾兩

福地源一席

金四百五拾兩但百五拾兩

柴田昌吉

金三百兩但百兩

酒造洪基

金貳百拾兩但百拾兩

安房大錦

金四百五拾兩但百五拾兩

野村大光

金貳百拾兩但百拾兩

十等林 董三席

金三百兩但百兩

何文部少教授

金貳百拾兩但百拾兩

池田大助教

金壹万九百八拾兩

夕
積
卷

外務省

旅費江出

但三ヶ月分

特命全權大使

右大臣

岩倉具視

支度料

別段口金

金六百兩

金九百兩

小務省

外務省

洋銀五十万两

月口口口口口口

金五十万两
洋銀五十万两

將軍全權大使副使

参議

本戶 孝允

大藏卿

大久保利通

工部大輔

伊藤博文

外務少輔

山口尚芳

支度料

金針五十万两

但支費五十万两拾五也

金貳千兩

別延口口口

但支費五十万兩

洋銀四十万两

月口口口

外務省

但三員、廿千貳百兩

✓ 金四千石、廿兩
洋浪四百八十兩

一等書記官

外務少丞

田邊 太一

同大記

塩田 篤信

福地 源一

文部少教授

何 禮之助

支度料

金千五百兩

但三員、廿千貳百兩

引皮口

金六百兩

但三員、廿千貳百兩

月

洋浪之千兩

但三員、廿千貳百兩

外務

外務

洋金二千兩
洋銀二千兩

二等書記官

外務大記

柴田 昂吉

日少記

渡邊 洪基

神奈川縣十等出仕

林 董三席

兵部省七等出仕

小松 清治

支度科

金千兩

但三員 年二百五拾兩

月口 多角

金四百兩

但三員 年百兩

月口 多角

洋銀千四百兩

但三員 年百兩

一等書記官

外務省

外務省

✓ 金千四百兩
洋銀千四百兩

二等書記友

川路簡堂

金計百五拾兩

支度料

金八拾兩

河原口子高

洋銀五百拾兩

月山子高

✓ 金三百二十拾兩
洋銀三百拾兩

四等書記友

外務大務

安藤忠経

文部大助教

池田政懋

金三百六拾兩

支度料

但支費百八拾兩

金百八拾兩

河原口子高

但支費百七拾兩

十等書記

外務省

洋銀九百兩

日高

但金員月日百五拾兩

金五兩
洋銀九百兩

使節隨行

野村外務大臣

金銀百五拾五兩

支度料

金百八拾兩

日高九十四分

金百五拾五兩

總金百五拾五兩
洋銀百五拾五兩

外務省

夕
務
一
百

辛酉月廿

一 洋浪之方之西

一 洋浪之方之西

是年特命之權臣及於書院及於書院及於書院

辛酉月廿

一 辛酉月廿

是年特命之權臣及於書院及於書院及於書院

辛酉月廿

一 辛酉月廿

是年特命之權臣及於書院及於書院及於書院

十
務
一
百

一 宣統元年

宣統元年四月

特命宣統元年四月

一 宣統二年

特命宣統二年四月

一 宣統三年

特命宣統三年四月

一 宣統四年

特命宣統四年四月

一 宣統五年

特命宣統五年四月

一 宣統六年

特命宣統六年四月

一 宣統七年

特命宣統七年四月

一 宣統八年

特命宣統八年四月

